

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.17



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2016 Spring-Summer

築城

特別展

職人たちの輝き

平成28年春夏号

- 特別展「築城—職人たちの輝き—」…………… 2
- ◆夏企画展「夏休みこども博物館 探検!古代の世界」…………… 4
- ◆研究ノート 向山遺跡(姫路市太市中)—大市駅家の比定地— …… 4
- ◆考古博物館分館(加西市)「ブレ企画展が終わり、工事も本格化へ!」…………… 5
- ◆東日本大震災復興支援職員現地報告…………… 6
- ◆弥生機復元に挑戦!…………… 7

平成28年度 ～春の特別展～

「築城 ―職人たちの輝き―」

期間：平成28年4月23日～6月19日(開館51日間)

※但し、5月24日(火)から一部展示替え有り

協力：滋賀県立安土城考古博物館(公財)竹中大工道具館 山陽電気鉄道株式会社 ひょうご考古家倶楽部

江戸時代初め関ヶ原合戦によって新たな領地を得た大名たちは、次々に居城を築き、世の中は全国的な“築城ブーム”に沸き立ちました。県内でも白亜の五層天守を頂く姫路城などの近世城郭がこの時期に誕生します。

本展では姫路城の築城の情景や、名古屋城、篠山城などの天下普請の城を紹介し、この時期の熱気に溢れた職人(技術者)たちの創意と工夫を紹介します。また、「築城図屏風」、「石曳図屏風」、さらに考古資料や道具類・建築部材などを通して築城作業の風景を紹介します。

I プロローグ

プロローグでは城郭史を技術的な視点や社会状況から解説します。近世城郭の特徴について“築城”の時期や、誕生の経緯がもつ意味について考えます。

II 石垣の城の登場(織豊時代)

織田信長の安土城、豊臣秀吉の大坂城は新たな時代の城郭として画期的なものでした。

これらの城郭は石垣・瓦・礎石建物を導入することで、高石垣や天守など新たな城郭景観を出現させることに成功しました。豪壮な城郭構造は大名の威厳を示すモデルとなり、その後の近世城郭に多大な影響を及ぼしたといわれています。



宇野構の石垣

III 西国外様大名たちの築城(慶長期築城ブーム)

関ヶ原合戦を経て西国の有力外様大名たちが築城をリードする時代が到来します。彼らによって築かれた城郭は、織豊時代の築城技術をさらに発展させ、今日見る近世城郭を成立させます。展示では姫路城を中心にこの時期の城郭の特徴について述べ、石垣や瓦から職人たちの活躍を見つめます。この他、新たな視点として姫路城築城に対する民衆の思いについても紹介したいと思います。



国宝 姫路城天守

IV 天下普請による築城(慶長後期～寛永)

大坂の陣の前後から寛永期(1615～1630代頃)にかけては幕府や譜代大名たちの築城が盛んになります。この時期は築城技術の進化や、効率化が進み、短期間に大規模な城郭が築城されます。そして、城郭構造も複雑で巧緻な縄張りから、方形を意識した縄張りへと著しく変化が進みます。こうした流れを篠山城、名古屋城の城郭の特徴や、築城石の採石場などから紹介します。



篠山城全景

V 「築城図屏風」と「石曳図屏風」の世界

「築城図屏風」から読み取れる築城作業の様子を紹介し、当時の築城とこれを見物する人々の生き生きとした姿を、紹介します。また「石曳図屏風」では大石を運搬する情景が活写され、当時の熱気が伝わってきます。



巨石を曳く様子
 (「築城図屏風」名古屋市博物館蔵、愛知県指定文化財)

VI 軍学に基づく築城(藩政期)

慶安元年(1648)に築城が開始される赤穂城は、この時期としては数少ない本格的な新規築城でした。甲州流軍学に基づいた理論的な縄張りによって、洗練された城が築かれます。同城を通じて最終段階の近世城郭の築城を紹介します。



赤穂城三の丸大手門

(学芸課 山上雅弘)

《展覧会関連情報》

【特別展講演会】

時 間／13:30～15:00(12:50より整理券配布)
 会 場／当館講堂
 定 員／120名
 参加費／無料

4月23日(土)
 「慶長期“築城ブーム”」
 山上雅弘(当館学芸員)

4月30日(土)
 「築城石の調達と石切場
 —伏見城・大坂城から見た豊臣から徳川へ—」
 森岡秀人氏(奈良県立橿原考古学研究所共同研究員)

5月7日(土)
 「姫路築城と播磨の民衆」
 松井良祐(当館学芸員)

5月21日(土)
 「名古屋城跡における近年の調査成果と整備」
 市澤泰峰氏(名古屋城総合事務所学芸員)

6月4日(土)
 「石垣建設と穴太の役割 —「築城図屏風」を読み解く—」
 木越隆三氏(金沢城郭研究所)

【体験イベント】

「鑑定! 焼物の産地をあてよう」
 日 時：平成28年5月3日(火)～5日(木)
 13:30～15:00

参加費：無料
 場 所：当館メインホール

「大工さんと鉋削り体験」
 日 時：平成28年5月29日(日)
 参加費：無料
 場 所：当館メインホール

ペーパークラフト「櫓を作ろう」
 日 時：平成28年6月11日(土) 13:30～15:00
 定 員：30人

【城跡ウォーク】

「姫路城～職人の息吹を訪ねて～」
 日 時：平成28年5月14日(土)
 小雨決行
 定 員：20名(☎079-437-5564)
 参加費：200円(保険料含む・資料代)
 その他：現地集合、現地解散
 天守閣、有料ゾーンには入りません

【展示解説】

会期中の日曜日 13:30～14:00

【ひょうご考古楽倶楽部による紙芝居】

「姫路城妖怪物語」
 日 時：会期中の土・日曜日 13:00～13:30
 日 時：当館メインホール

企画展予告

夏休みこども博物館 探検!古代の世界

平成28年7月23日(土)~9月4日(日)

昨年から始まった夏休み子ども向け企画展「夏休みこども博物館」の第二弾。今年のテーマは「探検!古代の世界」です。

縄文時代の人は何を食べていたのかな? 弥生時代の人はどうやってお米を作っていたのかな? 古墳の中には何が入っているのかな? 奈良時代の人にはどんな字を書いていたのかな? 古代の世界にはナゾがいっぱい。当館のマスコットキャラクターほったんといっしょに古代の世界を探検してみよう!

楽しくあそべるハンズ・オン展示をいっぱいそろえて、みなさまのご来館をお待ちしています。



◆会期中のイベント◆

●クイズ&スタンプラリー

○会期中の日曜日 13時30分~15時 ○先着50名 ○参加無料 ※要観覧券

●ワークショップこども考古学教室 古代の家を作ってあそぼう

○7月30日(土)・8月13日(土) 13時30分~15時 ○先着20名 ※小学生以下(保護者参加可) ○参加無料

●紙芝居上演 当館オリジナル紙芝居「海のお米」「おなかいっぱい」

○会期中の毎土曜日・日曜日 13時~13時30分 ○参加無料

●考古博DE夏まつり

○8月11日(木・祝) 12時30分~15時30分 ○参加無料

研究ノート

むかいやま

「向山遺跡」

(姫路市太市中)

おおいちのうまや

「大市駅家の比定地」

向山遺跡は古代山陽道の駅家跡である可能性が高いもので、昨年度は駅家の中心部「駅家院(やっかんいん)」推定箇所を調査しました。

調査区の南側では奈良時代の整地層を掘って埋められた礎石が2基発見されました。礎石は奈良時代当時の位置を保っている可能性があり、そうであれば駅家院の脇殿のものであると考えられます。

また、調査区の北側では東西方向の溝や奈良時代の瓦を捨てた瓦溜まりも見つかっており、この場所に駅家院が置かれていたことはほぼ確かだと思われます。

平成28年度はこれまでの調査成果を纏め、報告書を刊行する予定です。



調査区全景(南から)

(学芸課 鐵 英記)

考古博物館分館(加西市) プレ企画展が終わり、工事も本格化へ!

分館開館プレ企画展「千石コレクション 古代中国鏡の至宝Ⅱ」を、平成28年の1月に実施しましたところ、多くの方々にご観覧いただくとともに、分館の開館に向けて、たくさんの期待と励ましの言葉をいただきました。

現在、平成29年4月を開館予定とし、建築工事、展示工事など、具体的な「もの」づくりがはじまりました。プレ企画展では、アンケートを実施するとともに、来館者の声を直接お聞きすることで、様々な課題と可能性を明らかにすることができました。その一つは作品の「見やすさ」です。今回は、展示室の構造上、壁に沿ったケースに陳列し、斜め上から鏡を見て頂きましたが、「距離が遠く、見づらい」といった声を頂きました。これについては、鏡を真上から、しかも、ケースの

ガラス面との距離を20～30cm程度に近づけると共に、照明も工夫をし、鏡の展示に特化したケースを設計することで対応していきます。

また、鏡の拡大写真を展示したところ、「細かい紋様が見やすい」「指で示しながら話ができる」との好評価をいただきました。鏡を展示する際の最大の課題である「いかにして鏡の細かい紋様に気づき、興味をもっていただけるか」について、大きなヒントとなりました。

今後、開館に向けて様々な仕掛けを用意し、実物のもつ迫力と、鏡の裏側に込められた奥深い世界を楽しく紹介できるようにいたしますので、どうぞご期待下さい。



正倉院をイメージした外観（左：展示施設、中：エントランス、右：フラワーセンター本館）



鏡に特化した展示ケース



鏡の紋様を拡大したパネルと高精細画像検索

東日本大震災復興支援職員現地報告

兵庫県と東北 ～ 復興への思いをツナグ ～

東日本大震災の復興事業に関連する埋蔵文化財の発掘調査を支援するため、当館職員が平成27年度も岩手県と宮城県に派遣されています。職員から現地報告が寄せられましたので、紹介します。

岩手県教育委員会派遣

篠宮 正さんからの報告

東日本大震災津波から5年、甚大な被害を受けた三陸沿岸部の景観は大きく変わりつつあります。平野部を臨む高台は削られ、更地になった被災地は埋め立てられ、減災を考えたまちづくりが着実に進んでいます。

これらの復興に伴う遺跡の発掘調査で多くの過去の生活の痕跡をよみがえらせました。宮古市乙部遺跡^{おとべ}では三陸の海の恵みを受けた縄文時代前期の集落、宮古市荷竹日影遺跡^{にちくひかげ}では鉄の恵みを受けた平安時代の小鍛冶を中心とする集落でした。いずれも小規模な調査でしたが、この地域の特徴が凝縮された内容でした。自然と共に生きていた古代人の姿が目に浮かびます。

今後、他の多くの人が携わった発掘調査で得られた歴史と地域的特性を見つめなおすことにより、新しい地域づくりができるのではないかと考えます。復興から創生に向けて歩み続ける被災地を微力ながら応援していきたいと思います。

宮城県教育委員会派遣

大本朋弥さんからの報告

震災復興で宮城県への支援が始まって4年目となる今年度、私の職員生活4年目もこの地でスタートしました。

地元職員とともに全国から集まった支援職員が尽力してきた結果、高台移転に伴う大規模な本発掘調査は先日すべて終了しました。復興への歩みがわずかに進んだ一方、沿岸各地で未だ残る防潮堤復旧や大規模な圃場整備に伴う試掘・確認調査が本格化しています。

塩釜市の離島各地ではじまっている防潮堤復旧工事、南三陸町で進む大規模な盛土工事。これらを横に見ながらの現場で、復興調査に求められているスピードをひしひしとを感じる毎日でした。

今は圃場整備事業に伴う多賀城西側での確認調査を担当しています。広い調査区を少しでも早く調査できる方法に頭を悩ませるとともに図化記録作業に明け暮れる日々を過ごしています。先日ついにひと月遅れで雪が積もりました。毎週降る雪のなかでの調査に悪戦苦闘していますが、少しでも早い復興を目指して残りの期間着実に職務を全うしたいと思います。



大船渡湾を背景とした試掘調査風景



多賀城市での確認調査風景

やよいばた 弥生機復元に挑戦!

ボランティアの指導による盛んな古代体験が、当館の学習支援事業の大きな特徴です。体験メニューの改良や開発は、主に、豊富な経験をもつボランティアがグループワーク(ひょうご考古楽倶楽部の同好会、館主催のワーキンググループの活動)のなかで、体験者への配慮に重きを置いた工夫を重ねて実現しています。

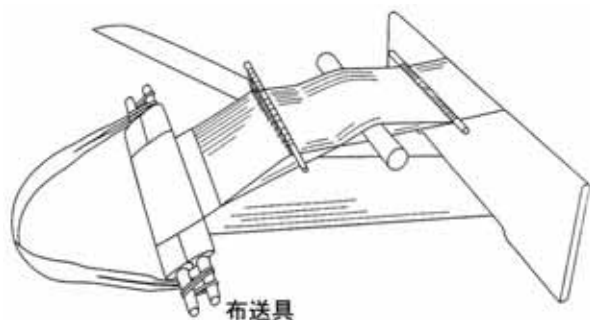
新たな古代体験メニューの開発にあたっては、出土品に基づいた復元実験をとおした、念入りの準備が必要になる場合があります。当館の最近の事例として、弥生機の復元に向けた歩みの様子をご紹介します。

◆復元のきっかけ

昭和59年の玉津田中遺跡(神戸市)の発掘調査において、弥生時代中期の旧河道から、機織りに使う木製品が出土しました。全国で初めてこれが2つ組み合わさった形で見つかったため、これまで復元されていた弥生機とは異なる使い方をした道具だと考えましたが、残念ながら調査報告書刊行時点では、明確な使用方法を示すことはできませんでした。

東村純子氏(福井大学講師)は、東南アジアに残る機織りの手法を精力的に調査され、これまで日本各地で復元されていた弥生時代の機織り手法を見直し、玉津田中遺跡で出土した2個1対の木製品(布送具)を含む道具一式を復元されました(下図)。また、下之郷史跡公園(滋賀県守山市)では、この新たに復元された弥生機を使って体験学習が行われています。

目から鱗の落ちる思いでこの成果に触れた私は、平成26年12月、ひょうご考古楽倶楽部の同好会「織姫おりひめ」にこの研究成果を示し、弥生機復元の契機になった遺跡を調査した兵庫県の当館に相応しい機織りの復元を提案しました。



東村氏復元の弥生機模式図

◆ボランティアの学び

同好会「織姫」は、機織りや染色等の研究や活動を精力的に行っているグループです。「織姫」のメンバーは、この提案に興味をもち、布の材料となるカラムシを使った糸作りの勉強を始め、播磨町郷土資料館栽培のカラムシを使わせていただき、糸作りができるようになりました。

一方で「織姫」は同好会「古代の木製品をつくる会」に依頼し、玉津田中遺跡で出土した機織り道具の復元製作がなされました。

館は、平成27年8月に、東村さんに講義をお願いしました。当日はボランティア全体の3分の1にあたる45名が熱心に参加しました。講義「弥生時代の紡織」に加え、下之郷史跡公園で活動する「弥生織りの会」のご協力による実演・体験も行われました。糸づくりから織りに至る一連の手順の詳細についてご教示いただき、当館の弥生機の復元に向けて大きなはずみになりました。



講義・弥生機の体験

◆今後の動き

現在「織姫」は、試行錯誤を重ねながら、カラムシの糸づくり、弥生機での織りを目指しています。布が織り上がり、貫頭衣が完成する日は遠くないでしょう。

ボランティアグループが、研究者の先端研究や先行事例に学びながら、弥生時代の機織りを目指していることをご紹介しました。今後、来館者に何らかの古代体験メニューを提供するためには、さらなる学びと工夫を重ねる必要がありますが、焦らず、ともに楽しみながら進めていきたいと思っています。ご期待ください。

(学習支援課 甲斐昭光)

イベント・スケジュール

4月			
イ	3	日	学芸員によるミニ講座
イ	10	日	学芸員によるミニ講座
イ	17	日	学芸員によるミニ講座
展	23	土	特別展「築城—職人たちの輝き—」開幕
講	23	土	特別展講演会「慶長期「築城ブーム」
講	30	土	特別展講演会「築城石の調達と石切場—伏見城大坂城から見た豊臣から徳川へ—」
5月			
イ	3	火祝	GW イベント「鑑定！焼物の産地をあてよう」
イ	4	水祝	GW イベント「鑑定！焼物の産地をあてよう」
イ	5	木祝	GW イベント「鑑定！焼物の産地をあてよう」
講	7	土	特別展講演会「姫路築城と播磨の民衆」
体	14	土	城跡ウォーク「姫路城—職人の息吹を訪ねて—」
イ	15	日	バックヤード見学ツアー
講	21	土	特別展講演会「名古屋城跡における近年の調査成果と整備」
イ	29	日	大工さんと鉋削り体験
6月			
講	4	土	特別展講演会「石垣建設と穴太の役割—「築城図屏風」を読み解く—」
体	5	日	赤米をつくろう ～田植え～
イ	11	土	ペーパークラフト 「櫓を作ろう」
イ	19	日	バックヤード見学ツアー
展	19	日	特別展「築城—職人たちの輝き—」閉幕
イ	26	日	学芸員によるミニ講座
7月			
講	2	土	最前線 2016「中国古代鏡(千石コレクション)鑑賞法」
イ	3	日	学芸員によるミニ講座
イ	10	日	学芸員によるミニ講座
イ	17	日	学芸員によるミニ講座
イ	20	水	バックヤード見学ツアー
展	23	土	企画展 夏休み子ども博物館「探検！古代の世界」開幕
体	23	土	自由に土器をつくってみよう
体	24	日	からむしでコースターをつくろう！

7月			
イ	24	日	クイズ&スタンプラリー
体	30	土	ハニワくんをつくろう AM・PM
イ	30	土	こども考古学教室 「古代の家を作ってあそぼう」
体	31	日	キラリ！ガラス勾玉づくり
イ	31	日	クイズ&スタンプラリー
8月			
イ	3	水	バックヤード見学ツアー
体	6	土	ごはんが炊ける土器づくり
体	7	日	強力パワー！子持勾玉づくり
イ	7	日	クイズ&スタンプラリー
イ	11	木祝	考古博 DE 夏まつり
イ	13	土	こども考古学教室 「古代の家を作ってあそぼう」
イ	14	日	クイズ&スタンプラリー
イ	17	水	バックヤード見学ツアー
体	20	土	好きな色の勾玉をつくろう！
講	20	土	最前線 2016「中世多田荘の大規模集落—川西市 西畦野下ノ段・井戸遺跡—」
体	21	日	漢委奴国王の印をつくろう！ AM・PM
イ	21	日	クイズ&スタンプラリー
体	27	土	兵庫県の石で勾玉をつくろう！
イ	28	日	クイズ&スタンプラリー
イ	31	水	バックヤード見学ツアー
9月			
イ	4	日	クイズ&スタンプラリー
展	4	日	企画展 夏休み子ども博物館「探検！古代の世界」閉幕
体	11	日	赤米をつくろう～観察会&石包丁づくり～
イ	11	日	学芸員によるミニ講座
イ	11	日	バックヤード見学ツアー
イ	18	日	学芸員によるミニ講座
講	24	土	最前線 2016「ヤマト王権と古墳の儀礼」
体	25	日	古代の技に学ぶかごづくり～箕の菓子器づくり～
イ	25	日	学芸員によるミニ講座

講…講演会 体…体験講座 イ…イベント 展…展覧会

- 「特別展展示解説」は特別展開催期間中の日曜日に実施。13:30～14:00
- 「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:30～15:30
- 体験講座は予約が必要です。実施日の2か月前開始 TEL079-437-5564 (学習支援課)
- イベントについての詳細情報は当館ホームページやチラシでご確認ください。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.17 2016 Spring-Summer

発行年月日 平成 28 年 3 月 15 日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西I.C.から約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください (普通車 1回200円)
- 休館日／月曜日 (祝休日の場合は翌平日)・5月2日、8月15日は開館



触れる・体感する、考古学のワンダーランド
兵庫県立考古博物館

